

# チム九

印刷を支え加工を活かす

## 無線綴じ部門 丸田 恵梨香

「カレンダーの生産数が日本一」という文言に惹かれ、2013年に高校の求人票で見つけた旭紙工株式会社へ新卒入社した丸田恵梨香さん。無線綴じ部門に所属し、2014年以降は検品作業をメインに行っています。不慣れな業務に苦戦しつつも徐々にスピードアップを果たし、今では先輩に指導するまでに。そんな丸田さんに、これまでの失敗談や印象深いエピソード、今後の目標などをお聞きしました。



——まずは業務内容を教えてください。

メインで行っている検品作業では、不良品のチェックをしています。本の小口や背がきれいに整っているか、背文字が歪んでいないかなどを入念に確認。見逃すとそのまま社外へ送り出されてしまうので、一つひとつ真剣に見ています。そのほかに、断裁した紙に自動で糊を塗布するスパインペイスターという機械の操作にもかかわっています。

どちらの業務も経験を重ねて慣れていくことが肝要。当初は自分でも嫌になるほど時間がかかりましたが、だんだん慣れてきて作業スピードが上がっていききました。

——これまでに、記憶に残るような失敗はありましたか。

入社1年目に、忘れられない大失敗をしています。紙を折る機械で「Z折り」の加工をしたときのことです。作業場に居合わせた人から「この向きで紙を入れればいい」と聞いて、その通りに紙を入れたのですが、全部折り終わったときに工場長がやってきて、「えっ、これ違う」と……。

明確に目標を定め、日々の仕事と向き合っている丸田さん。一步一步、前へ進み続けるその姿から目を離せません。

りにもならないようにインクを調整し、ちょうど良い硬さに仕上げなくてはなりません。色調整に気を取られている間に糊が硬くなってしまふこともあり、逆に入念に糊の柔らかさを調整している間に黄緑色に仕上げる時間が足りなくなることも……。

それだけに、職場の皆さんが手伝ってくれてフデペンが順調に仕上がったり、糊付け作業へスムーズに移行できたときは心からほっとしますし、皆さんのサポートが本当にありがたくて。このようにチームワークで業務に取り組み、達成することにやりがいを感じます。

——プライベートについても伺います。趣味や好きなことを教えてください。

趣味はジャニーズで、特に好きなのは関ジャニ∞となにわ男子。年に4〜5回はコンサートに足を運んでいますね。

姉の子どもの甥と姪と一緒に遊ぶのも楽しみの1つ。甥は2歳、姪はまだ1歳で、かわいい盛りです。私は実家住まいなので、姉が2人を連れて遊びに来たときに、楽しくわいわい遊んでリフレッシュしています。

——最後に、今後の目標をお聞かせください。

一番は、業務のレベルアップです。特にミニ断裁の作業を今以上にスピーディーに、きれいにできるように。そしてもう1つは、職場のコミュニケーション。私は入社したばかりの時期は必要以上に話をしていなかったのですが、仕事を通じて皆さんと打ち解けたら、職場が楽しくなりました。今は先輩に仕事を教えるようになったので、こちらから積極的に話しかけて、プライベートの話もできるような関係が作れたらと思っています。

全身からサーッと血の気が引きました。私に教えてくれた人が、勘違いをしていたのです。もちろん、作業はすべてやり直しになりました。

なぜ、1枚折った時点でチェックしなかったのかと、心の底から後悔しました。工場長からは「1年目でまだ慣れていないのだから、些細なことでも確認してもらいなさい」とアドバイスをいただき、以降、大きな失敗はしていません。

——入社してから苦労したこと、やりがいや達成感が大きい仕事はありますか。

苦労したのは、スパインペイスターで使用する糊の扱いです。糊は硬さが命。硬すぎると作業効率下がってしまうのです。時間の経過とともに糊は硬くなりますから、その場合は薄めて柔らかくしたり、場合によっては作り直したり。ちょうど良い粘度の糊を準備するのが今でも悩ましい作業です。

もうひとつ、スパインペイスターにかかわる「フデペン」と呼ばれる業務もなかなか思い通りにはいきません。フデペンという強材を調査して黄緑色の糊を作るのですが、このフデペンがもっとも調査が難しい糊なのです。黄色寄りにも緑色寄



### 企業情報

- ◆ 創立年：1983年1月
- ※ 創業：1963年
- ◆ 年商：14億円
- ◆ 従業員数：200人

# 部署紹介

Department Introduction



## 瓜破工場の4年間の追う!

～2019年立ち上げから2022年までの歩み～

4年前に実施した部署紹介が帰ってきました。→新型コロナウイルスが全世界で猛威を振るい、当社でも大きな影響を受けました。それでも今があるのは、各々がそれぞれの持ち場で奮闘した結果です。パート2では、その4年間の軌跡を追います。

記念すべき一発目を飾るのは、2019年1月に新工場としてスタートした瓜破工場。時が経ち、今どのような変化を遂げているのでしょうか。

### 瓜破工場の「いま」

4年前から変わらず、中綴じ製本を行っています。断裁、折り、中綴じの3部門に分かれて24時間体制で生産しています。メンバー構成は工場長、副工場長1名、各部門長、作業員です。作業員は現在80名ほど。一番多い時期には100名以上いた作業員ですが、コロナの影響で研修生が減っていることもあり、この4年間で一番少ない人数です。

瓜破工場 工場長  
かとう ひでき  
加藤 秀樹さん

## 瓜破工場の歩み

### 2019年

#### 新工場完成！運営開始！

機械もメンバーも全部揃って始められることができた年です。その前から東大阪工場にあった機械やメンバーだけ移動していたのですが、年明け1月から私も工場長に着任し、全員入社することができました。

### 2021年

#### ストップしていた研修生の受け入れが再開

止まっていた研修生の受け入れが少しずつ戻ってきた年です。この流れは現在も続いており、2023年の年明けにも研修生が入ってくる予定があります。2021年も引き続き苦しい時期ではありましたが、営業部の頑張りのおかげで結果を残せた年だったと思います。

### 4年間での業務変化

#### 工場長自ら夜勤に入ることでの難しさを体感

2022年2月から、私が夜勤に入るようになりました。これまで夜勤の作業員から「トラブルへの対応や状況判断が難しい」という声が上がっており、改善するために始めた取り組みです。

実際現場に入ってみると、日勤とは全く違う感覚でした。例えば、作業内容で不明点や確認したいことが出てきても、夜は連絡することができません。また、日勤は朝から晩までの様々な情報が工場に入りますが、夜勤は夜勤での情報しか入らないということも分かりました。そのため、夜勤に入るときはしっかりと事前準備が必要になります。また、変則勤務による体への負担も身に沁みて実感しました。

反対に夜勤の良いところは、作業内容が大きく変わること。日勤の場合はお客様の要望により、作業が180度変わることがあるのですが、夜勤はその心配がないので助かります。

今まで夜勤作業員の困り事や難しさを分かっていたのですが、真正面から捉えられてなかったと反省しました。これからも現場の声を真摯に受け止め、工場の改善に努めていきたいと思っています。

### 2020年 新型コロナウイルスの発生と感染拡大による危機に直面

一番コロナの影響を受けた年です。依頼が全くない時期もあり、不安な毎日を送っていました。仕事の波も大きく、一気に依頼がきたと思うと一気になくなるということを繰り返していた年です。

研修生も母国へ帰ることができず、とりえず現状を維持するしかなかったという印象です。その後規制が緩和されたタイミングで帰国する研修生もいましたが、その分の入国がなく、受け入れがない状態が続きました。

苦しい状況の中でも本部長指導のもと、「工場を明るくしよう」と掃除をしたり壁に絵をかけたりと様々なことに取り組んでいました。本部長の支えが本当に心強かったことを覚えています。



### 2021年

#### 人手不足によるピンチを他部署からの協力により脱却

今までで一番他部署の力を借りた年です。人手不足により派遣を依頼しただけでなく、作業員ではない技術開発部や物流部にも協力していただき、なんとか乗り越えることができました。

### 4年前の取材について

まだ改装中だった工場で、雨漏りをした話をしたことを覚えています(笑)



### 今後の目標

4年前と変わらず、従業員が「この会社で良かった」と思ってもらえる職場にしていきたいです。まだまだ力が及ばない場面が多くありますが、作業員一人ひとりが最後まで力を発揮できる環境をつくるのが私の夢です。これからも従業員のために力を尽くしたいと思います。